

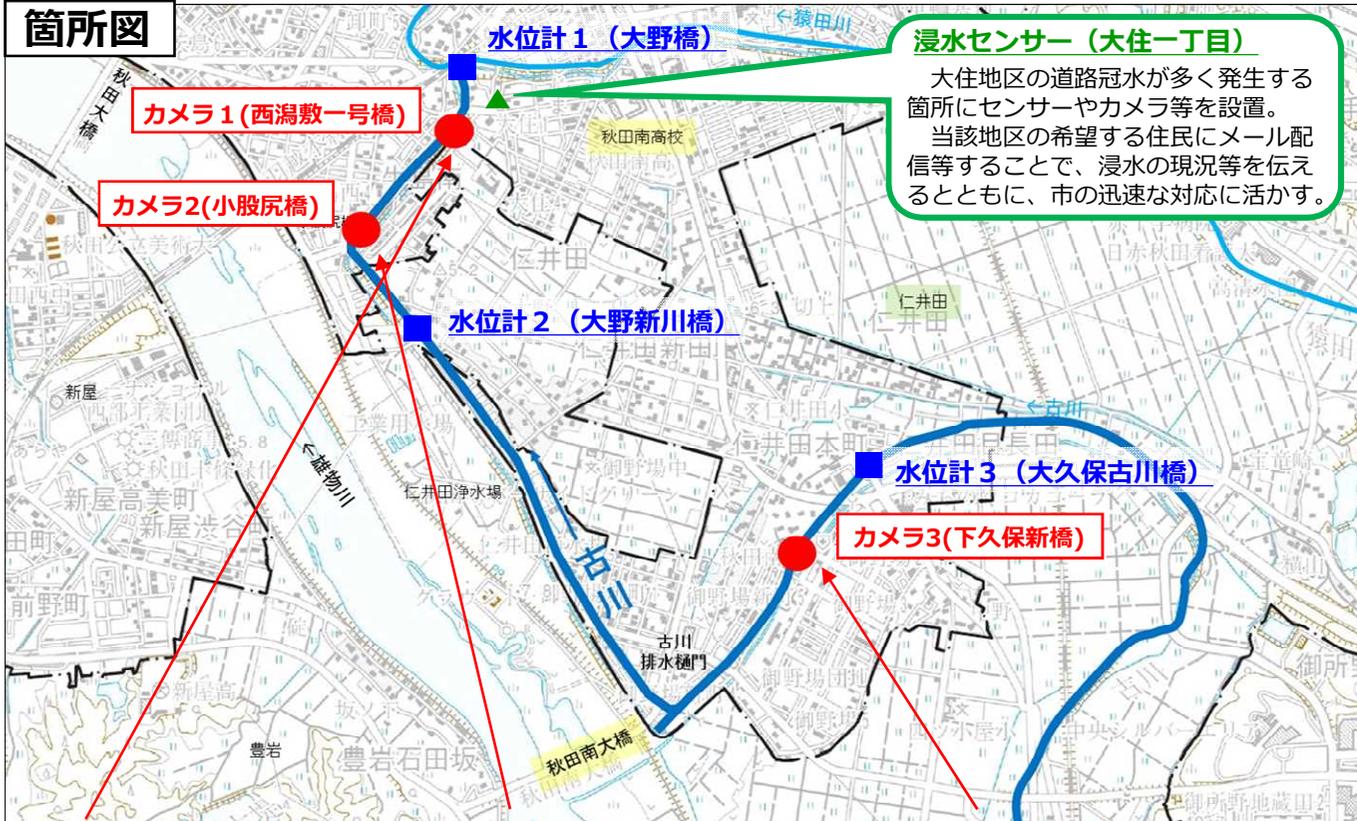
第6回古川流域の総合的な治水対策協議会資料

(3) 関連事業の紹介

令和4年3月23日

市では、令和3年度、古川沿川に河川カメラ等を設置しました。IoT技術を活用しながら映像を広く配信することで、河川管理者だけでなく、地域住民等がスマートフォンやパソコン等で河川の状況をリアルタイムで確認でき、適時適切な河川管理や避難判断等に活用することができる。(令和4年4月1日から配信開始)

箇所図



浸水センサー (大住一丁目)
 大住地区の道路冠水が多く発生する箇所にセンサーやカメラ等を設置。当該地区の希望する住民にメール配信等することで、浸水の現況等を伝えるとともに、市の迅速な対応に活かす。

ネットワークカメラ

- 沿川に3台設置
- 赤外線照明機能で夜間視認性を確保
- 水位の目安となる量水標を設置

4月1日から配信開始

配信方法

- 市ホームページ
- しーなアプリ (CNA公式無料アプリ)
- CNAコミュニティチャンネル 秋田LIVE (121ch)



市では、防災機能のさらなる強化を図るため、令和3年度より、排水ポンプ車を2台配備し、円滑な作業技術の習得を目的に排水訓練を実施したほか、令和3年7月の大雨時に、道路冠水箇所において排水作業を行った。

災害対策用排水ポンプ車	01号車	02号車
車両の外観	 <p>(長8m×幅2.5m)</p>	 <p>(長10.5m×幅2.5m)</p>
排水能力	30m ³ /分 (排水ポンプ 1台5.0m ³ /分×6台)	60m ³ /分 (排水ポンプ 1台5.0m ³ /分×12台)

排水ポンプ車稼働条件

下記の①～④をすべて満たすこと

- ① 排水先に十分な能力があり、排水の影響で新たな被害が生じる恐れがない。
- ② 排水ポンプ車の進入可能な通路がある。
- ③ 排水ポンプ車の設置が可能な作業スペースが確保されている。
- ④ ポンプの稼働に必要な浸水深が1m以上がある。

排水訓練

委託業者の作業技術の習得を目的とした災害対策用排水ポンプ車の排水訓練を計4回（春期2回・秋期2回）実施。

古川排水樋門 (仁井田字柳林地内)



三角沼緑地公園 (新屋船場町地内)



出動実績

令和3年7月の大雨時の出動状況

バス路線となっている天徳寺地下道の冠水箇所において排水作業を行い、道路冠水の早期解消に効果を発揮。



01号車 30m³/min

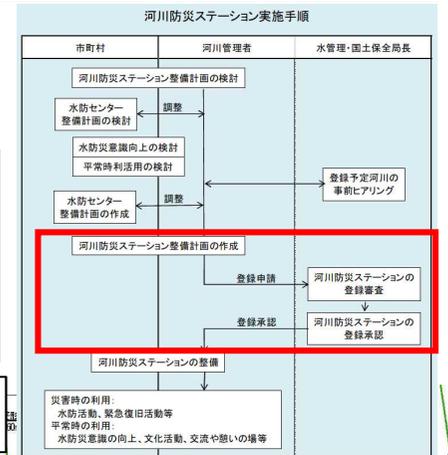
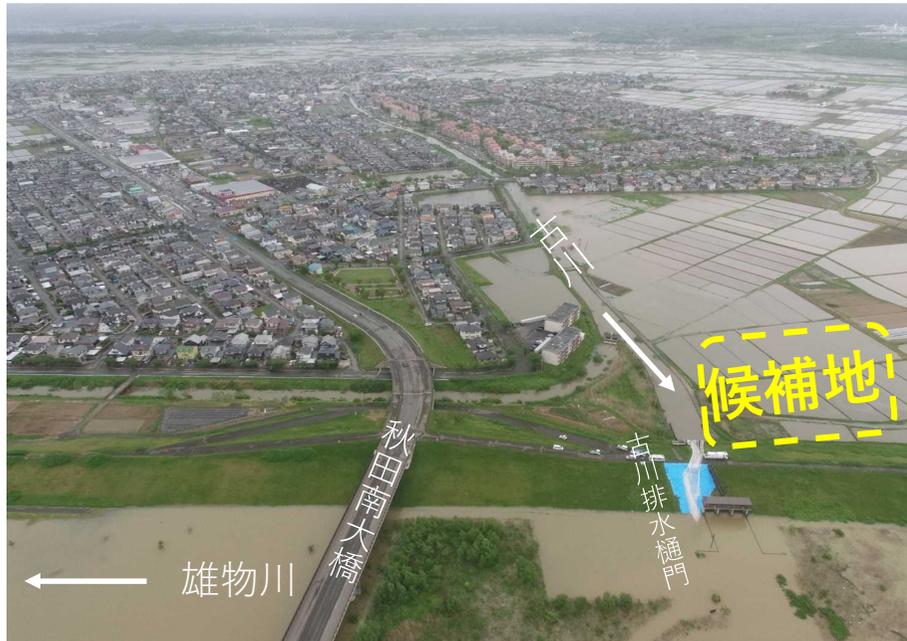
雄物川の河道掘削（H29～R2）

- 秋田河川国道事務所では、洪水時における雄物川の水位低下と **古川からの排水をより効率化するため、雄物川の河道掘削**をしています。
- H29の仁井田地区から始まり、小山地区までの区間 **（約40万m³）をR2に完了**。

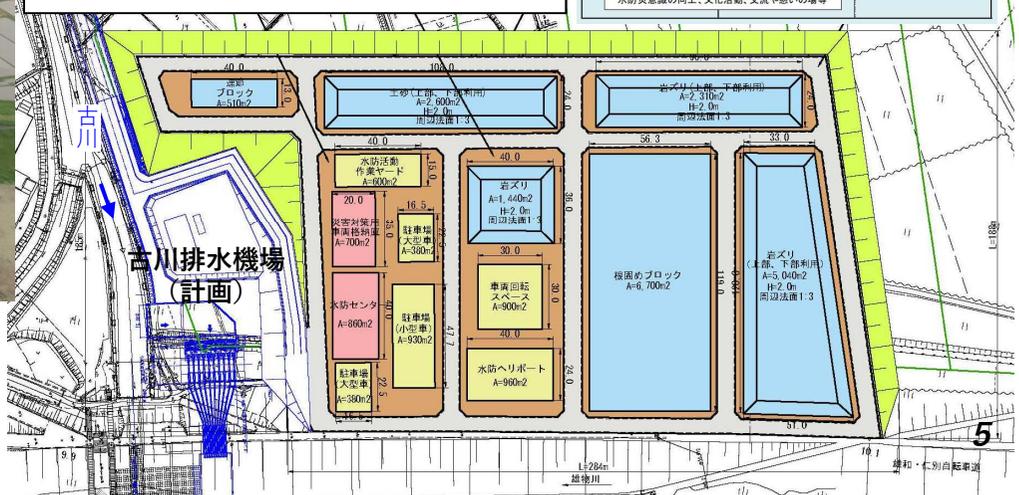


- 「河川防災ステーション」は、水防活動を行う上で必要な土砂などの緊急用資材を事前に備蓄しておくほか、国と自治体が連携し、洪水時には水防活動の拠点となるとともに、平常時には地域の人々のレクリエーションの場として活用される施設です。
- 秋田地区河川防災ステーション（仮称）は、雄物川下流域の洪水被害を最小限とするため、治水施設の連携、災害時の緊急復旧活動を行う上で必要な緊急用資材の備蓄、ヘリポート等の整備を行うとともに緊急車両の基地や秋田市が水防センターを設置するなど、災害時の活動拠点としての利用を想定しています。
- 現在、年度内の整備計画承認に向け秋田市と協働で作業を行っております。

2018年5月19日撮影



施設配置イメージ (案)



古川排水樋門